

図書案内

2020 年 9 月号

担当 3-1 林 3-3 伊藤

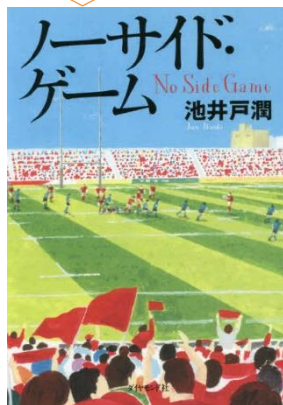
〇〇〇

秋

9 月に入り、秋がやってきました。みなさんは、「〇〇の秋」と聞いて何が思い浮かびますか？ 今回はテーマにちなみ、「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」「ゲームの秋」の 4 冊を用意しました。いろいろなジャンルの本に触れる良い機会ではないでしょうか？ 「読書の秋」を満喫してください！

本は図書館で貸出しています。

スポーツの秋



『ノーサイド・ゲーム』 池井戸 潤

君嶋隼人は、取締役の滝川と対立し、左遷させられてしまう。その先で君嶋は、ラグビー社会人リーグ「アストロズ」のゼネラルマネージャーを兼務することになった。仕事に取りかかった君嶋の目に飛び込んできたのはチームの赤字額 16 億円という絶望的な数字だった。君嶋はどのような策でチーム存続の危機を乗り越えるのか——。昨年、日本中を熱狂させたラグビーを少し違った観点から論理的かつ情熱的に描いた物語(伊藤)。

終わってしまえば勝者も敗者も無い代わり、終わるまでは徹底的に勝利にこだわって技術と体力、知略の全てを尽くす——その相反する現実を許容するだけの精神性こそ、ここに証明されているものだ。

食欲の秋

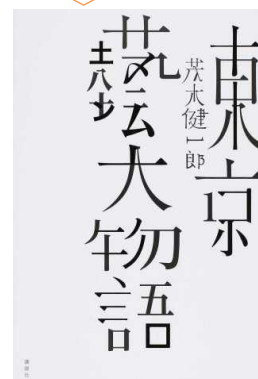


『彼女のこんだて帖』 角田 光代

長年の交際の末に破局、家族の不仲、駆け落ち、拒食症……。主人公たちはなんらかの日常の問題を抱えています。それでも、生きていかなければならない。一日を乗り越えるため、主人公はいつもより少し手間をかけて、ちょっと特別な手料理を作り始めます。そして、人と人をつなぎ、お腹と心を満たしていきます。巻末には各話に登場したご飯たちのレシピが写真付きで紹介されていて、食欲を刺激します。美味しい短編集。(林)

肉だ、肉しかない。

芸術の秋



『東京藝大物語』 茂木 健一郎

入学試験の倍率は実に数十倍にも上り、日本最難関とも言われる東京藝術大学。主人公はそこで一年間非常勤で講師をすることになる。そこで、常人とかけ離れた性格と思考回路を持ったユーモラスな学生と出会い、講義でもプライベートでも親交を深め、芸術について語り合う——。実際に東京藝大で講師を務めた経験を持つ著者が実体験と知識をもとに書き上げた私小説(伊藤)。

凡庸な作品をつくるいい人であることと、悪い人でも傑作を描くことのどちらかを選べと言われれば、芸術家の答えは決まっている。

ゲームの秋



『スタートボタンを押してください』 ケン・リュウ他

テキストアドベンチャー、FPS、VR、MMORPG。これらのゲームに馴染みはありますか？ この本に収められた 12 編にはこれらのゲームが登場します。主人公の世界で進行する物語と、主人公のプレイによって展開されるゲーム世界での物語が織りなす、新感覚 SF アンソロジー。先のゲームに触れたことのある人は勿論、何のことやらという方にもお勧めです。ビデオゲームと小説の可能性を拓く一冊(林)。

おかしい言い方だけど、決めてちょうだい。ゲームをとるか、わたしをとるか。これは真剣よ(『救出よろ』より)。



食欲について

天高く馬肥ゆる秋ですね。旬の物で食卓が彩られ、平生にも増して食欲が湧いてきます。今回はそんな食欲について紹介します。食欲は「報酬系」という脳のシステムが深く関係しています。これは、ある行動をすることで得られる報酬を求め、ヒトに行動を起こさせ、モチベーションを引き出す仕組みのことです。これにより、ヒトは「報酬を得られる行動こそやりがいのある行動」として打ち込むということが可能になります。そして、ヒトをはじめ動物が生きていくために必要な摂食行動の対象、つまり「食べ物」は報酬の原型です。食べ物が得られれば嬉しく、また、それが予想以上に美味しい場合、期待していたよりも大きな報酬を得たことになります。そして、その報酬を得ることとなった行動が強化され、その食べ物が病みつきになるのです。しかし、同じ物を食べ続けると嫌になってしまうように、報酬系には「飽きる」という現象が起きます。すなわち、食欲は脳によって統制されているのですね。

【出典】『食欲の科学』 櫻井武・著 講談社 2012 年